



RAMBLAS PRESS RELEASE

2026 年 9 月 18 日

ELMS 第 5 戦シルバーストン、総合首位を快走し、
最終的に総合 3 位、クラス 2 位の表彰台をゲット！



2023 年シーズンよりヨーロピアン・ル・マン・シリーズ (ELMS) に挑戦を続けている佐藤万璃音 (UNITED AUTOSPORTS USA 所属 27 歳) が、9 月 11 日～13 日にイギリス、シルバーストン・サーキットで開催された 2026 年 ELMS 第 5 戦「GOODYEAR 4 HOURS OF SILVERSTONE」において、昨年同様 LMP2・PRO/AM (プロ・アマ) クラスにエントリー。ゴールドドライバーである佐藤万璃音がリーダーを務め、ブロンズドライバーのダニエル・シュナイダー選手、プラチナドライバーのオリバー・ジャービス選手と共に、カーナンバーも昨年と同じ 21 号車として参戦いたしました。

フリー走行からマシンのバランスは悪くなく、オリバー・ジャービス選手が1分45秒902で6番手タイムをマーク。ダニエル・シュナイダー選手も続くブロンズドライバー占有セッションを走り、1分50秒539で11番手タイムをマークしていました。

予選はルールによってブロンズドライバーのダニエル・シュナイダー選手がアタックします。フリー走行2回目には、チームは合計39周をこなして1分47秒009をマークしていましたが、ダニエル・シュナイダー選手にとっては余り好まないセットアップの方向性だったようです。

しかしダニエル・シュナイダー選手は、予選でチームの不安を一掃し、1分48秒483というベストタイムをマーク。結果は11番手でしたが、それぞれのベスト・セクタータイムを繋げば9番手のポジションを狙える走りでした。

レースのスターティングドライバーもダニエル・シュナイダー選手が務め、4時間耐久レースは正午にスタートしました。

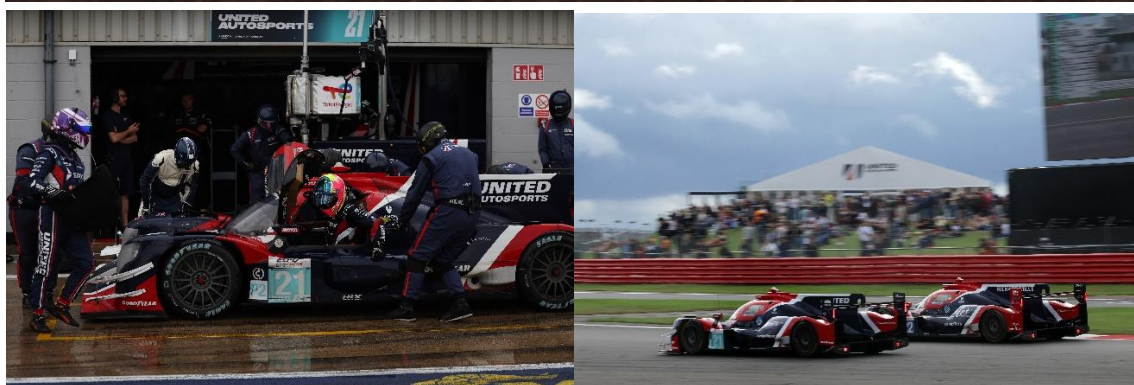
前日の夜間に降った雨によってコースはウェット状態でしたが、走行ラインはかろうじて乾いており、スリックタイヤでのスタートとなりました。しかし天気予報では午後遅くには雨が降ると言われており、各チームともタイヤ交換時期のタイミングがレースの鍵を握るということで、天気予報を注視しながらのレースとなりました。

スタートからコンスタントな走りを見せたダニエル・シュナイダー選手は、ラップダウンになることなくオリバー・ジャービス選手と交代。代わったオリバー・ジャービス選手のペースは速く、快調にポジションを上げ始めました。

レース開始後2時間が過ぎたところで雨が降り始め、様々なアクシデントが起こります。FCYやVSCが導入され、雨がやや強く降り出したタイミングで、21号車はいち早くレインタイヤに交換し、大きくポジションをアップすることに成功しました。

ハイペースで飛ばすオリバー・ジャービス選手から佐藤万璃音に交代。シルバーストンを得意とする佐藤万璃音は、ウェット路面で最速タイムをマークしながら激しい攻防を繰り広げてクラストップはもちろん、総合トップの座をも奪い、レース終盤まで快調なペースで首位を走り続けました。

しかしチームはオリバー・ジャービス選手のスティントで早いタイミングでピット作業をこなしていたため、レース終盤に燃料が不足し、スプラッシュ&ゴーのピット作業は覚悟していました。クラス2位を走るマシンに8秒以上のリードを奪わなければ、首位を守り切ることはできません。なんとかリードを広げようとする21号車でしたが、次第に路面が乾き始め、レインタイヤが厳しい状態となって、リヤのグリップが無くなりはじめました。最後はライバルチームよりも4周早くピットに入らざるをえず、総合3位、クラス2位でのチェッカーとなりました。



●佐藤万璃音のコメント

「今日のレースは不思議な展開でした。大きなトラブルも無く、すべてが順調なレースではあったのですが、自分たちが総合トップに立てた理由がわからないというか（笑）。もちろんオリバー・ジャービス選手のスティントで、早めにレインタイヤに交換したのが結果的に良かったのだとは理解しています。

今回のレースでは、ブロンズドライバーのダニエル・シュナイダー選手が良い仕事をしてくれました。フリー走行ではあまりセットアップが好みではなかったようですが、予選ではそれを乗り越え、良いタイムをマークしてくれましたし、レースでもスタートから大きなミスが無く、いつも以上にコンスタントに走り切ってくれました。そしてオリバー・ジャービス選手はドライでもウェットでも速かったです。自分のスティントでは、交代したタイミングでは前に何台かいましたが、ピット戦略も異なりますし、気にせず自分の走りに集中しました。ペースはかなり良かったと思います。実際に LMP2 クラスのドラ

イバーたちも含めてトップに立って、抜かれない自信はありました。ただ、最後に燃料が厳しくなるのはわかっていたので、8秒以上リードを広げたかったのですが、雨がやんでしまい、レインタイヤがグリップを失い始めてリヤが厳しくなってしまったので仕方ありません。それでも2位入賞、総合3位入賞は良い結果だと思います。応援してくださった皆さん、ありがとうございました。

すでにチャンピオンの可能性は失っていますが、最終戦のポルティマオでも良い走りを見せて、来年、再来年に繋がるレースをしたいと思っています」



●このリリースに関するお問い合わせ：有限会社ランブラス info@ramblas.co.jp